

令和6年度 学校評価実施報告書

学校名(京都市立松原中学校)

教育目標

自ら考え行動し、仲間と協働できる、未来を切り拓く生徒の育成

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <p>今年度も、校長のイニシアティブのもと、【自ら考え行動し、仲間と協働できる、未来を切り拓く生徒の育成】を目指して教育活動の改善を重ねていく計画を立てた。授業形態や活動もコロナ以前の取り組みに戻し、目標を達成する手立てを図った。さらに、タブレット端末の利用や、指導方法の工夫を行うことで、取り組みを前進させることはできた。</p> <p>また、道徳教育をはじめとして、各授業実践を積み重ねてきた。教育活動全般を通じて道徳性を養い、仲間を大切にする心を育ててきた。しかし自らを律する面(自律)については家庭学習や基本的な生活習慣の確立など依然として課題があるので、今後も道徳教育などを柱として教育活動を推進するとともに、来年度も「職場体験学習」を充実させたものとし、キャリア教育にも力を入れつつ保護者と連携して効果的な指導を図りたい。</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <p>3月5日(水)学校運営協議会評価部会実施。</p> <p>おおむね、学校の取り組みを評価している。様々な取り組みの細部まで、気配りをしながら、1年間教育活動をしていることがよくわかる。</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和6年10月28日	学校運営協議会理事会
最終評価	令和7年3月5日	学校運営協議会理事会

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』**重点目標**

- (1) 生徒が探究心を向上させる学びの授業を実践する。
- (2) 言語活動と協同を意識した授業を実施し、図書室を活用した授業に取り組む。
- (3) 地域と連携した伝統文化教育を充実させ、全教育活動で取り組む。
- (4) 学習確認プログラム等において、本校の平均点の向上を図る。
- (5) 信頼される総括評価と形成的評価を充実させる。
- (6) GIGAスクール構想の推進

具体的な取組

- 学力・コミュニケーション能力の定着のための TT 授業として、話し合い活動を取り入れた授業の実施。
- 「学力向上チーム」を充実させて、学習確認プログラム等を活用し学力分析を行う。
- 授業改善に向けた教科主任会、教科会の充実を行う。教科会については、定期的に行う。また、「授業研修」の充実のため公開授業週間を年2回設定する。
- 積極的な GIGA を取り入れた授業の実施と研修の実施。
- 学力向上を支える「自己指導能力」の向上を目指した取組の推進(三機能や授業規律についての研修)。
- 学習に遅れがちな生徒には、単元ごとや定期テスト前、長期休業中に『補充学習』を実施する。
- 家庭学習の習慣づけをするための取組(家庭学習課題や週末課題の活用・点検)。
- 学習確認プログラムの予習・復習シートの積極的な活用。
- 「学びの共同体」などのメンターとなる外部講師等を招聘し、教職員が学び、少人数話し合い活動を取り入れた授業展開を積極的に進めていく。
- 朝読書の時間確保と指導の徹底。図書室の活用促進のための委員会活動を通しての啓発。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学習確認プログラム及び全国学力・学習状況調査の分析結果。
- ・生徒及び保護者アンケートの結果分析。
「授業などに、グループ学習などのような生徒主体の学習活動が展開されている」(生)
「お子さんは家庭学習にしっかり取り組んでいる」(保)
- ・授業参観、学級懇談会、個人懇談の際の保護者の意見。

中間評価

各種指標結果

- *学習確認プログラムにおいて、全学年前市平均より高く、一定の頑張りが見られる。
- *生徒及び保護者アンケートの結果分析も例年通り、高い数値であった。
- *個人懇談の際の保護者の意見として、学校に対しての要望もあるが、おおむね学校に対しての信頼感は安定している

自己評価

分析(成果と課題)

*学習確認プログラムにおいて、1年生は、高い学力を維持できている。今後もこの学力を維持できるように指導を工夫していきたい。2年生は学力が少し下降気味であるが、それでも一定の学力を保っている。学力の推移の波はあるにせよ、3年生に向けてこの水準を保っていけるよう努めたい。3年生は、教科によりばらつきはあるものの前市平均より上回ることが多い。受験に向けて安定して力が發揮できるよう指導に力を入れていきたい。

*生徒及び保護者アンケートの結果

「授業などに、グループ学習などのような生徒主体の学習活動が展開されている」は、2.I.P アップした。

「お子さんは家庭学習にしっかり取り組んでいる」は、1.5.P ダウンしている。

*学校が落ち着いていることもあり保護者からの学校に対する評価は安定している。ただ、個別な課題に対しての声や要求に対して誠意をもって答えていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

*授業も日々改善を積極的にしていくとともに、その点検を行う。

*評価についても校内で研修を深め、次の学習につながるような指導を工夫していく。

	(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラム及び全国学力・学習状況調査の分析結果。 ・生徒及び保護者アンケートの結果分析。 <p>「授業などに、グループ学習などのような生徒主体の学習活動が展開されている」(生) 「お子さんは家庭学習にしっかり取り組んでいる」(保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、学級懇談会、個人懇談の際の保護者の意見。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 今後も、生徒が安心して学習できる環境を整えていけたらと考えている。

最終評価

	(中間評価時に設定した)各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラム及び全国学力・学習状況調査の分析結果。 ・生徒及び保護者アンケートの結果分析。 <p>「授業などに、グループ学習などのような生徒主体の学習活動が展開されている」(生) 「お子さんは家庭学習にしっかり取り組んでいる」(保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、学級懇談会、個人懇談の際の保護者の意見。
自己 評 価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・学習確認プログラム及び全国学力・学習状況調査の分析結果から、一年間を通して一定の学力の伸長がうかがえた。 ・生徒及び保護者アンケートの結果分析からも「学校に行くのが楽しい」(生徒)が 89.8%、「お子さんは楽しく学校に行っている。」(保護者)91.3%と安定している。 <p>「授業などに、グループ学習などのような生徒主体の学習活動が展開されている」(生徒)-1.3%と横ばいである。</p> <p>「お子さんは家庭学習にしっかり取り組んでいる」(保護者)は、+4.9%と上昇した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、学級懇談会、個人懇談の際の保護者の意見では、学校の取り組みにおおむね評価をいただいている。
	分析を踏まえた取組の改善 今年度も、家庭学習課題を出したり、学習確認プログラムに向けての取り組みを習慣化できたりした。 今後は、個別の学習にも力を入れ、個に応じた取組にも取り組んでいきたい。 また、タブレット端末を利用した取り組みも定着しており、来年度以降、家庭学習についてもタブレットを利用した取り組みをさらに発展させていきたい。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 3月5日(水)学校運営協議会評価部会実施。 <ul style="list-style-type: none"> *生徒が概ね楽しくできていることは大いに評価できる。今後も継続してほしい。 *家庭での取り組みも充実してきているのではないか。 *今後も積極的な教育活動を行い地域に発信してほしい。

(2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

- (1) 生徒理解を深め、ていねいな個別対応を実践するとともに、積極的な生徒指導を積み重ねていく。
- (2) 生徒が安心して生活できる温かな学級づくりを行い、よりよい集団作りを実現できるような学級経営力を向上させていく。
- (3) 生徒会活動や部活動の充実を通して、生徒の健全育成やボランティア精神の向上、自尊感情の涵養を図る。
- (4) 人権文化の定着を図り、参加体験型人権教育を推進する。
- (5) 「総合的な学習の時間」、道徳、特別活動を充実させ、よりよい人格形成を推進していく。
- (6) 生徒の「いいとこ探し」を全学年で行い、自己肯定感や自己有用感の向上に努める。

具体的な取組

- 生徒会活動や学級活動、学校行事を活性化し、自治能力や自尊感情を高める。
- 規範意識の高揚や自律を促すために、より一層「道徳教育」の充実を図る。また、そのためにさまざまな形態の授業を積極的に取り入れて行う。(話し合い活動・学年道徳・全校道徳など)
- 評議会にて「ハッピー・マッピー(いいところ探し)」の実施の仕方を考え、自己肯定感や自己有用感の向上を図る。
- 校庭内の花壇、畠地に季節の草花を積極的に育て、自然に親しみ、命を尊ぶ気持ちや、生き物を大切にする心を醸成する。
- 毎朝の「朝読書」の時間の保障と指導の徹底により、生涯学習としての読書習慣を身につけさせ、気持ちを読み取る力の充実を図る。
- 生徒指導の一環として、登校時の「あいさつ」運動を年間通して実施していく。
- 互いの人間関係を上手く保つために、感謝の気持ちや言葉を互いにかけるように、道徳・学活等で日常的に指導する。
- PTAや、学校運営協議会と学校が協力して、地域とともに豊かな心を育む活動を行う。
- 保幼小中連携協議会等を通じて、地域の子どもたちの規範意識の醸成を図る。
- 地域の伝統文化体験(特に壬生狂言)・見学や歴史に触れて、地域を誇れる子どもの育成を図る。

(取組結果を検証する)各種指標

- ・生徒指導部が中心となって、毎週「いいとこ探し」を行い、自己肯定感や自己有用感がどのように推移したか、アンケート調査の分析を行う。
- ・学校評価のアンケート
「私は、あいさつ・時間厳守・環境美化などの社会マナーが身についてきている。」
「声を出して、あいさつをしている。」
を分析する。
- ・アンケート「自分たちによる学級活動や生徒会活動などの自治活動が行われている。」を分析する。
- ・教育相談を通して、親和性のある温かな学級集団が育っているか聞き取る。

中間評価

各種指標結果

- ・「いいとこ探し」は各クラス単位で行うことができた。
- ・学校評価のアンケート「私は、あいさつ・時間厳守・環境美化などの社会マナーが身についてきている。」は、+0.1、「声を出して、あいさつをしている。」は、+1.2であった。

・アンケート「自分たちによる学級活動や生徒会活動などの自治活動が行われている。」は、-3.8 であった。

自己評価	分析(成果と課題)
	*「いいとこ探し」について、前期は組織的でできていなかった。 *学校評価の生徒何ケートも少しづつではあるが上昇しているが「相手の考えをきき折り合いをつけることができる生徒」では-1.1P であった。
	分析を踏まえた取組の改善 *「いいところ探し」は継続して取り組んでいきたい。 *学校評価でマイナスのポイントの経過の推移を学校経営に生かしていく。
(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none">生徒指導部が中心となって、「いいとこ探し」を行い、自己肯定感や自己有用感がどのように推移したか、アンケート調査の分析を行う。学校評価のアンケート<ul style="list-style-type: none">「私は、あいさつ・時間厳守・環境美化などの社会マナーが身についてきている。」「声を出して、あいさつをしている。」「自分たちによる学級活動や生徒会活動などの自治活動が行われている。」「相手の考えをきき折り合いをつけることができる生徒」を分析する。教育相談を通して、親和性のある温かな学級集団が育っているか聞き取る。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 教職員と生徒が信頼関係をもって教育活動を行っているのがわかる。 あいさつに関しても小学校とも連携を今後も強化していってほしい。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した)各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none">生徒指導部が中心となって、「いいとこ探し」を行い、自己肯定感や自己有用感がどのように推移したか、アンケート調査の分析を行う。学校評価のアンケート<ul style="list-style-type: none">「私は、あいさつ・時間厳守・環境美化などの社会マナーが身についてきている。」「声を出して、あいさつをしている。」「自分たちによる学級活動や生徒会活動などの自治活動が行われている。」「相手の考えをきき折り合いをつけることができる生徒」を分析する。教育相談を通して、親和性のある温かな学級集団が育っているか聞き取る。
	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none">「いいとこ探し」はクラスごとにできましたが、組織的な取り組みが構築できなかった。学校評価のアンケート<ul style="list-style-type: none">「私は、あいさつ・時間厳守・環境美化などの社会マナーが身についてきている。」は、96.8%と高い状態での横ばい状況である。

	<p>「声を出して、あいさつをしている。」は、98.4%と+3.2Pと良好である。</p> <p>「自分たちによる学級活動や生徒会活動などの自治活動が行われている。」は、94.7%とこれも生徒が積極的に活動していることがわかる。</p> <p>「相手の考えをきき折り合いをつけることができる生徒」は、96.2%と+5.8Pと大きく上昇している。</p> <p>を分析する。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>*概ね良好であり、生徒が自主的に頑張ろうとする姿勢がうかがえる。</p> <p>*「相手の考えをきき折り合いをつけることができる生徒」については、その中身も精査しながら、さらに取り組みを進めたい。</p>

学校
関
係
者
評
価

学校関係者による意見・支援策

3月5日(水)学校運営協議会評価部会実施。

*生徒が積極的に取り組もうとする姿勢に安心感を持っていただいている。

*地域としても、生徒が前を向いて取り組めることを応援したい。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

- (1)「いのち」を最も大切であるという理念のもと、活気があり、安心して、安全な学校生活が送れることに重点を置いて教育活動を進める。
- (2)保健衛生面に关心を持ち、積極的に健康維持に努めようとする態度を養う。
- (3)基本的生活習慣の確立に向け、生活習慣や食について家庭への啓発を図る。
- (4)感染症防止のための正しい知識を身につけさせるとともに、家庭への啓発を図る。

具体的な取組

- 性教育・安全教育・健康教育に関する学習(薬害、エイズなど)を系統的に取り組み、専門家を活用して実施していく。
- 防災教育として、地震・台風・大雨等の災害は身近に起こりえるものとして「主体的に行動する態度」を育成する。
- 安全教育として交通事故や熱中症、転落事故、水難事故などから身を守るための知識や判断力を養う。
- 心身の健康の保持推進目指した食教育の推進を図る。
- 保健衛生全般について、生徒会・保健安全委員会が中心となり、広報活動をしていく。また、養護教諭(保健室)による、「保健だより」により啓発をしていく。
- 地域や学校運営協議会との連携により、防煙・薬物防止教室等を計画していく。
- 基本的生活習慣等の健康調査をおこない、課題や改善点を共通認識し、日常の教育活動に生かせるよう養護教諭を中心に研修会を行っていく。
- 学校保健委員会、保護者会、学校運営協議会を通して、健康教育への協力と理解を得るために活動をおこない、地域とともに健康的な子育てを行う。
- スマホ依存を防ぐため、学級での生活習慣指導とともに、健康生活向上へ向けた指導を行う。

(取組結果を検証する)各種指標

- ・健康調査を行う。
- ・朝食の接取率や就寝時間の調査を通して、基本的生活習慣の確立の状況を分析する。

- ・スマホへの依存度合いを減少させる。
- ・喫煙、飲酒、薬物ゼロを目指す。
- ・アンケートの「学校には、心やからだの健康について相談できる場所や人がある。」について分析する。

中間評価

各種指標結果

- ・毎日の健康調査を行った。
- ・朝食の接取率は高いが、24時までに就寝している生徒は比較的少なかった。
- ・「携帯電話の使い方の学習」を、講師を招いて行った。
- ・「喫煙、飲酒、薬物ゼロを目指す学習」を、講師を招いて実施した。
- ・アンケートの「学校には、心やからだの健康について相談できる場所や人がある。」は、-1.6P ダウンしているが高い数値で安定している。

自己評価

分析(成果と課題)

- *日々、健康を大切にする教育を保護者の協力を得ながら実践できた。
- *生徒に対するアンケートで、朝食の接取率は高いということが分かったが、24時までに就寝している生徒は前回に引き続き半数を下回った。
- *「携帯電話の使い方の学習」「喫煙、飲酒、薬物ゼロを目指す学習」を、外部から講師を招いて取り組むことは今後も継続していきたい。
- *「学校には、心やからだの健康について相談できる場所や人がある。」は例年高い数値で移行しているが、少ないながらいる、相談できない生徒に光を当てながら取り組みを進めていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- *継続して「朝食の接取率」や「就寝時間」の調査を行う。
- *スマホの依存度についての調査も継続して行う。

(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標

- ・朝食の接取率や就寝時間の調査を通して、基本的生活習慣の確立の状況を分析する。
- ・スマホへの依存度合いを減少させる。
- ・喫煙、飲酒、薬物ゼロを目指す。
- ・アンケートの「学校には、心やからだの健康について相談できる場所や人がある。」について分析する。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

スマホの取り扱いなどむつかしい面もあると思うが、粘り強く取り組んでいる。
地域・保護者とも連携をとりながら取り組みを進めたい。

最終評価

(中間評価時に設定した)各種指標結果

- ・朝食の接取率や就寝時間の調査を通して、基本的生活習慣の確立の状況を分析する。
- ・スマホへの依存度合いを減少させる。
- ・喫煙、飲酒、薬物ゼロを目指す。
- ・アンケートの「学校には、心やからだの健康について相談できる場所や人がある。」について分析する。

自己評価	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食の接取率や就寝時間の調査を通して、基本的生活習慣の確立の状況を分析を保健委員会などを中心に行った。また、改善の取り組みも行ったが、朝食も就寝についても結果は横ばいで、さらなる取り組みが必要と思われる。 ・「スマホへの依存度合いを減少させる。」でも、使用時間の縮小はなかなかむづかしく、継続して取り組むことを確認した。 ・「喫煙、飲酒、薬物ゼロを目指す。」について、今年度は「ゼロ」であった。 ・アンケートの「学校には、心やからだの健康について相談できる場所や人がある。」については、86.6%(-0.6P)と若干ではあるが減少した。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善 <p>今年度は、感染症などの影響もなく様々な取り組みが制限なく活動が十分に行えた。そのことにより、生徒が生き生きと活動する場面もさらに増えたが、昨年度同様、転轍も生まれそれが原因で不調を起こすことになる生徒もいた。今後も、生徒の成就感を養うことができる取組が増えていくと思われるが、個々の生徒の状況を把握しながら取り組みを進めていきたい。あいさつなどの項目については、ここ数年、全学年で「あいさつ・時間厳守・環境美化などの社会マナーが身についている」の項目で、9割以上の生徒が「できている」と答えている。今後も、定着させていきたい。</p>

(4) 学校独自の取組

重点目標
<p>義務教育9年間の教育目標を「育ちと学びの連続性の確立」と捉え</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の子どもたちの様子を保・幼・小・中・地域で交流し、課題を探り共有を図る。 ○保・幼・小・中・地域で、目指す子ども像の具現化に向けて実践する。 ○「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の指定を通して、考え方議論する道徳教育の確立と評価についての研究を進める。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ○夏季休業中に3校合同での全教員参加研修を実施し、分科会でテーマごとに研鑽を深め、児童生徒の課題や育てたい力について共通認識を図るとともに、小中連携の一層の充実を目指す。 ○道徳の研究授業を実施していくとともに、年2回の公開授業は保護者・地域にも公開する。 ○毎月の3校校長会、教頭・教務・研究主任を加えた総務部会、生徒指導主事・主任会、オープンスクールの開催、保幼小中館連携会議(館は児童館)の活性化等の取組を展開することで小中連携の充実を図る。
(取組結果を検証する)各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラム、学習確認プログラムの分析を小・中学校で行い、検証する。 ・ジョイントプログラムから確認プログラムベーシックへ、プレ1からプレ3へ、ファーストからセカンドへそれぞれ向上をめざす。 ・小中であいさつできる子どもを育成する。

- ・顔の見える交流を子ども・教員ともに実施する。

中間評価

自己評価	各種指標結果		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラムから確認プログラムベーシックへ、プレ1からプレ3へ、ファーストからセカンドへそれぞれ向上をめざして取り組めた。 ・小中であいさつできる子どもを育成できつつある。 ・小中の授業交流や双方の参観を実施することができるようになってきている。 		
	<table border="1"> <tr> <td>分析(成果と課題)</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> *学力については小・中が協力して、安定して取り組みを進めることができている。 *「あいさつ」ができる生徒が高い状態で安定している。 *夏季休業中に例年実施している小中合同での研修会は今年度も通常通り実施できた。 </td></tr> </table>	分析(成果と課題)	<ul style="list-style-type: none"> *学力については小・中が協力して、安定して取り組みを進めることができている。 *「あいさつ」ができる生徒が高い状態で安定している。 *夏季休業中に例年実施している小中合同での研修会は今年度も通常通り実施できた。
分析(成果と課題)			
<ul style="list-style-type: none"> *学力については小・中が協力して、安定して取り組みを進めることができている。 *「あいさつ」ができる生徒が高い状態で安定している。 *夏季休業中に例年実施している小中合同での研修会は今年度も通常通り実施できた。 			
学校関係者評価	<table border="1"> <tr> <td>分析を踏まえた取組の改善</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> *ここ数年取り組んでいる成果が出ているのではないかと考える。今後も継続して取り組んでいきたい。 *総合育成支援関係での小中交流を行う予定である。 *カウンセラーの小中交流を行う予定である。 </td></tr> </table>	分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> *ここ数年取り組んでいる成果が出ているのではないかと考える。今後も継続して取り組んでいきたい。 *総合育成支援関係での小中交流を行う予定である。 *カウンセラーの小中交流を行う予定である。
分析を踏まえた取組の改善			
<ul style="list-style-type: none"> *ここ数年取り組んでいる成果が出ているのではないかと考える。今後も継続して取り組んでいきたい。 *総合育成支援関係での小中交流を行う予定である。 *カウンセラーの小中交流を行う予定である。 			
<table border="1"> <tr> <td>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラムから確認プログラムベーシックへ、プレ1からプレ3へ、ファーストからセカンドへそれぞれ向上をめざして取り組む。 ・小中であいさつできる子どもを育成。 ・小中の授業交流や双方の参観を実施。 </td></tr> </table>	(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラムから確認プログラムベーシックへ、プレ1からプレ3へ、ファーストからセカンドへそれぞれ向上をめざして取り組む。 ・小中であいさつできる子どもを育成。 ・小中の授業交流や双方の参観を実施。 	
(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラムから確認プログラムベーシックへ、プレ1からプレ3へ、ファーストからセカンドへそれぞれ向上をめざして取り組む。 ・小中であいさつできる子どもを育成。 ・小中の授業交流や双方の参観を実施。 			
<table border="1"> <tr> <td>学校関係者による意見・支援策</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> 地域や小中学校がうまく連携をとりながら教育活動を進めているのがよくわかる。 今の関係を継続してほしい。 </td></tr> </table>	学校関係者による意見・支援策	<ul style="list-style-type: none"> 地域や小中学校がうまく連携をとりながら教育活動を進めているのがよくわかる。 今の関係を継続してほしい。 	
学校関係者による意見・支援策			
<ul style="list-style-type: none"> 地域や小中学校がうまく連携をとりながら教育活動を進めているのがよくわかる。 今の関係を継続してほしい。 			

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した)各種指標結果	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラムから確認プログラムベーシックへ、プレ1からプレ3へ、ファーストからセカンドへそれぞれ向上をめざして取り組む。 ・小中であいさつできる子どもを育成。 ・小中の授業交流や双方の参観を実施。 	
	<table border="1"> <tr> <td>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラムから確認プログラムベーシックへ、プレ1からプレ3へ、ファーストからセカンドへそれぞれ向上をめざして取り組めた。すべての学年で学力の向上が見られた。 ・小中であいさつできる子どもを育成を図っている。アンケートからもその成果が見られる。 ・小中の授業交流や双方の参観を実施できたが、来年はさらに拡張していきたい。 </td></tr> </table>	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・ジョイントプログラムから確認プログラムベーシックへ、プレ1からプレ3へ、ファーストからセカンドへそれぞれ向上をめざして取り組めた。すべての学年で学力の向上が見られた。 ・小中であいさつできる子どもを育成を図っている。アンケートからもその成果が見られる。 ・小中の授業交流や双方の参観を実施できたが、来年はさらに拡張していきたい。 		
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善	

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>3月5日(水)学校運営協議会評価部会実施。</p> <p>*小学校との連携がコロナ以降徐々に以前の状態に戻すことができてきたと感じる。</p> <p>*学力の向上の状況を保護者にも周知できるように工夫してもらいたい。</p>
-----------------------------	--

(5)教職員の働き方改革について

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人が勤務時間を意識するとともに、子どもと向き合う時間を確保する。 中教審及び文科省が明示した教師の「本来的業務」を重視し、「周辺業務や境界業務」を精査する。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 電話応対時間を午後5時30分までとし、以降は留守番電話に切り替える。 定期テスト日の午後や長期休業日における年休の取得を推進する。 長時間勤務の改善を目指すが、いわゆる「持返り残業」「風呂敷残業」は、個人情報保護の観点から推奨せず、学校で効率よく完結して帰宅するようにする。
(取組結果を検証する)各種指標	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の勤務時間。 年休取得率。 「周辺業務や境界業務」が削減できたかどうか検証していく。

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の勤務時間は、前年度に比べて減少している。 年休取得率も前年度に比べて増加している。 「周辺業務や境界業務」が削減できたかどうかは十分な検証ができていない。
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> *生徒の16時55分完全下校とすることは、教職員の勤務時間を削減することにつながっている。 *働き方改革をする中でも、生徒を大切にする教育を継続していくよう工夫していきたい。 *周辺業務や境界業務の整理ができ切れていないことがある <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> *生徒を大切にする教育を継続しながら教職員の勤務時間の削減を継続して行っていきたい。 *電話応対時間を基本的に午後6時までとし、以降は(特に事情がない限り)留守番電話に切り替えていく。また、生徒の出席連絡も、スクリレを活用して効率化を図っていく。 <p>(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育の質は維持しつつ、長時間労働にあたる教員の人数を減らす。 毎日、午後7時閉門を目標とし、極力この実現をめざす。

学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>働き方改革を進めていくうえで、地域として協力できることはしていきたい。 地域の会合などでも発信していきたい。</p>
-----------------------------	--

最終評価

自己 評 価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の質は維持しつつ、長時間労働にあたる教員の人数を減らす。 ・毎日、午後7時閉門を目標とし、極力この実現をめざす。 <p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間労働にあたる教員の人数を減らすことができた。 ・毎日、午後7時閉門を目標としたが、時期的にできないこともあった。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員を配置して頂き、プリントの準備等事務的な補助をやっていただけるため、教員は本来の業務に打ち込みやすくなった。今後も活用が望まれる。 ・突発的な業務が増える傾向があるが、メリハリをつけた勤務を心がけ長時間勤務を極力減らしたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>3月5日(水)学校運営協議会評価部会実施。 *先生が大変なのはわかるが、先生方の健康を大切にできるような職場づくりをしていただきたい。</p>

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標	<p>自他の人権を尊重し、共に支えあい、高まりあう「なかまづくり」を目指す。</p>
具体的な取組	<p>「学校いじめの防止等基本方針」に同じ</p>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ②学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。 ③「学校に楽しく通うことができていますか」 「学校はいじめをなくすことに取り組んでいる」を検証する。 ④生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。 ⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。

中間評価

各種指標結果	<p>① 「学校は「いじめ」をなくすことに取り組んでいる。」の項目、肯定的な回答が88.4%であった。</p> <p>② 1学期始業式や入学式で全校生徒に対していじめ対策委員会のメンバーを紹介した。</p>
--------	---

- ③ 「学校に行くのが楽しい」の項目に対して肯定的な回答が86.8%であった。
- ④ 学校評価のアンケートを9月に行い、11月に公表する予定である。
- ⑤ 学校運営協議会(10月)にて説明・周知した。

自己評価	分析(成果と課題)
	<ul style="list-style-type: none"> ・①より、教職員の組織的対応への重要性や理解が深まっている。 ・③より、「あてはまらない」とした生徒へのさらなる関わりが必要である。
	分析を踏まえた取組の改善
	今後も、生徒や保護者の気持ちに寄り添いながら、生徒のことを第一に考え、保護者の協力も得ながら取り組みを進めていく。
	(最終評価に向けた)取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ②学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。 ③「学校に楽しく通うことができていますか」 「学校はいじめをなくすことに取り組んでいる」を検証する。 ④生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。 ⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	すべての生徒に「学校に楽しく通うことができていますか」という回答にYESと答えられるよう、地域・保護者・学校が協力していきたい。

最終評価

自己評価	(中間評価時に設定した)各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ①全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ②学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。 ③「学校に楽しく通うことができていますか」 「学校はいじめをなくすことに取り組んでいる」を検証する。 ④生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。 ⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している。
	分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ① 全教職員に学校いじめの防止等基本方針の内容を周知し、校長を中心とした組織的対応に努めた。 ② 年度当初に、全校集会で学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介した。 ③ 「学校に楽しく通うことができていますか」は、アンケート結果より、9割程度の生徒がそう思っている。 しかし、まだ多くの生徒が楽しく通えていない現状を鑑み、取り組みを進めていきたい。 「学校はいじめをなくすことに取り組んでいる」を検証する。 ④ 生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有を、学年会・職員会議などで共有できた。 ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知して ⑥ た。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>*今後もまず、「いじめ」は許されないという規範意識を定着させていく *その上で、生徒の行動に直結するような考え方を涵養できるように道徳の授業をはじめ、すべての取り組みにおいて考えさせていきたい。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>3月5日(水)学校運営協議会評価部会実施。 *地域とともに松原中学校が通いたいと思えるような学校にしていきたい。</p>